

【参加者の感想】

- 事前に報道等で見聞きしていたことより、はるかに規模が大きく悲惨な現場を見て、地域の皆さんに地震の怖さというものを大いに語り、防災に役立てていかなければと痛感いたしました。
- 地域の人々に「逃げる」「助かる」気持ちを重点とした防災意識をもつことの大切さ、東北の人々からのメッセージを伝えていくことなど、必ず助かるために今自分ができることに積極的に取り組んでいかなければと思いを新たにしました。
- お（幼い子どもを前に上級生は後にして）・は（走ってはいけない）・し（しゃべらない）・も（戻らない、目的地まで行く）という言葉が覚ええました。



【写真提供】香南ケーブルテレビ

震災から2年

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から間もなく2年が経とうとしています。しかし、今なお被災地ではさまざまな厳しい問題に直面しています。

大震災から2年を迎えるにあたり、前半は、昨年度が自主防災組織を対象に行った「東日本大震災被災地視察研修の様子」と「災害への備え」について、後半は、被災者の復興を支援する団体「ちーむ麻の葉」の活動と「女川通信」を全4ページにわたって紹介します。

■問い合わせ
防災対策課
☎ 57-8501

自主防災組織、被災地へ

市 では津波の被害の実態などを学んでもらう、今後の取り組みに生かしてもらうと、津波浸水想定域にあたる自主防災組織を対象とした「東日本大震災被災地視察研修」を企画。昨年9月26日～28日と10月31日～11月2日の2回に分かれて、34組織54人が参加しました。

一瞬にしてまちが消える

仙 台空港へ降り立った二行がバスで移動中、車窓から見える景色は、大量の残れきりや建物の基礎部分だけが残る、ただ広い荒野が広がっていました。実際に被災地の惨状を目の当たりにし、テレビで見ていた時よりもはるかに津波のすさまじさを実感。尊い命が一瞬にして奪われた悲しみが込み上げ、言葉になりませんでした。

被災者の体験談

水 産業や観光業が盛んな宮城県気仙沼市では、リアス海岸で津波が高くなり、海が見えない地域にも甚大な被害が広がっていました。長さ60m、重さ330トン

語り部から学ぶ

語 リ部の方から話を聞き、特に印象に残っている言葉を紹介します。

- 警報が出たら、騙されてもいいから逃げる（大丈夫だろうという考えは捨てる）
- 防災訓練をおろそかにしない（普段からやっていること以上のことはできない）
- 一度避難したら一定の時間は家などに引き返さない（引き返して被災した人がいた）
- 緊急時の連絡先を家族で決めておく（例えば、東京の親戚を連絡先にするなど）

想定をはるかに上回る津波

宮 城県女川町役場を訪れた際には、防災担当の阿部清人さんの講演に耳を傾けました。来たる宮城県沖地震に備え、6mの津波を想定。しかし、実際には想定を大きく上回る18mの津波が襲い、240mにわたる防波堤を破壊しました。想定を信じ避難しなかった多くの方が犠牲になりました。まちが大きく変貌。まちの7割の家屋が流されるという甚大な被害をもたらした原因には「平地が極端に少なく、背後地は山」という地形が大きく関わっていました。

研修を終えて

私 たちは時間が経つにつれ、少しずつあの日のことを忘れてはいきませんか。被災地では住居や医療、雇用などの課題がいまだに山積しています。その中で希望を絶やさず懸命に生きる人のために、私たちは何ができるのでしょうか。

今回の研修で学んだことを1人でも多くの人に伝え、各地域の防災対策に役立てたいものです。そして、東日本大震災を教訓に何を学び、次の南海トラフ巨大地震に備え何をを行うのか、その問いに一人ひとりが常に向き合わなければなりません。「自分たちの地域は自分たちで守る」として、地震・津波による犠牲者を1人でも少なくするために…。

Interview

香我美町岸本 新町自治会自主防災会 会長 川崎 稔さん

より早く、より高く、より遠くへ逃げる

今 回の研修で、特に心に残った語り部の方の話があります。それは、津波に流されまいと必死に木にしがみつく親子の話。「息子が片手で木に捕まり、もう一方の手で父親の手を離すまいと頑張るが、このままでは木が折れて二人とも流されるという状況の中、ついに父親から手を離され、その時の手のぬくもりが忘れられません」という話に涙し、一緒に逃げることの難しさを痛感しました。

視察研修中、何度も耳にした避難の基本は「より早く、より高く、より遠く」へ逃げること。そのためには、まずは「自分が生きること」、そして家族、地域へと順番に救助の手を広げていくことが大事だということです。

私たちの地域には、防災コミュニティセンターが3月に完成し、住民活動と防災の拠点としての期待が高まっています。時間が経つにつれ記憶は薄れていきますが「継続は力なり」ということわざのとおり、話し合いや訓練を繰り返し、防災意識を高めていかなければならないと思います。

これからも地震・津波対策に対する地域の声を行政に届け、サポートしてまいります。



災害への備え

皆さん、将来必ず起こると言われている南海トラフ巨大地震に備えて、身の回りの準備は万端ですか。いざ災害が起こって、後悔やパニックに陥らないように、日ごろからの備えが大切です。

備えて安心！ 心強い「非常持出袋」

非常持出し品は、災害発生時にすぐ持ち出すべき「1次持出品」と、その後の数日間を自活するために必要な「2次持出品」に分類できます。全てのラインが機能しないことを想定して、準備します。賞味期限のある水や食料、使用期限のある電池などは、定期的に中身を交換しましょう。また、**玄関にはボール、寝室には靴（スリッパ）を備えて**いつでも家屋から脱出できる準備も必要です。

1次持出品

- ①水(目安は1人1日3ℓ)
- ②懐中電灯③非常食品
- ④緊急医薬品・常備薬
- ⑤携帯電話⑥携帯ラジオ
- ⑦財布⑧貴重品
- ⑨通帳・印鑑 など

2次持出品

- ①マッチ・ライター
- ②トイレトペーパー・ウェットティッシュ
- ③生理用品④洗面具
- ⑤ビニール袋⑥ラップ
- ⑦コンロ⑧新聞紙
- ⑨予備電池 など



ワンポイントアドバイス

貴重品

現金や通帳などの貴重品は、すぐ持ち出せるように準備をしておきましょう。

ガソリン

車のガソリンは、残り半分になったら給油するようにしましょう。

緊急情報メール配信

香南市が配信している「緊急情報メール配信」の登録をしましょう。地震・台風・大雨などの防災気象情報をお知らせします。登録は無料です。

URLを直接入力する場合

<https://kochi-konan.mail-dpt.jp>

※携帯電話のカメラ機能「バーコードリーダー」で読み取る

※アクセスできないときはURLを直接入力してください

